第４回ゼロ・ウェイスト円卓会議議事録（第２９回）

日　時　平成２４年２月６日（月）１４時～１７時４５分
場　所　市役所秋葉３階会議室Ｂ
出席者　宮北・藤本・高岡・嘉松・道上・永野・田中・桑畑・小里・山下
事務局　田畑・川本・坂本・池崎

１　進行役の決定について→KJ 法ファシリテーター・藤本

２　環境モデル都市フェスタについて

（課長）先ほどの推進委員会で正式に延期が決定した。早速開催時期等の調整について意見が出たが、今年は環境モデル都市宣言から２０年ということで様々な事業との関連が予想される。皆さんのご意見を伺いながら進めていきたい。

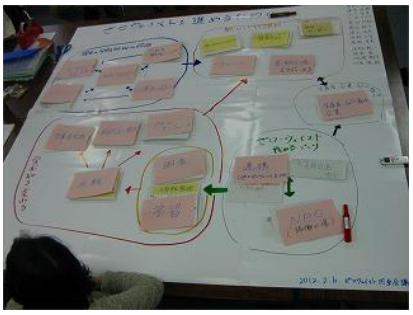
（課長）議題にはないが、３月末に福祉課（民生委員）が要援護世帯の聞き取り調査を実施予定。その際に、ごみについての簡単な調査（ごみ出しの際の手助けについて等）が可能だが、この機会を活用してはどうか？

・要援護世帯とは何を指すか？
　→高齢者や障がい者等、市やヘルパー等から何らかの支援を受けている人。
・高齢者や障がい者に配慮したごみ出しについて、本格的にテーマ化するとしたら民生委員にこの場に入ってもらった方がよいのでは？
・民生委員は受け持ちエリアが広く忙しい。手が回らないと思う。
・ご免除シールなどの支援は行っているが。
・ご免除シールとは？
　→クリーンセンターが分別の難しい人に配布しており、このシールが貼ってある袋はごみが混入していても OK というもの。
・そういうものがあることを初めて知った。
・調査のための質問を考えたところで、高齢者や障がい者だと答えがすぐに返ってこない場合も多いのでは？
・ヘルパーさんはどこまでしてくれるのか？
　→ごみの袋詰めまではしてくれるがステーションまでは持っていってくれない。プライバシーに関するルールが厳しく、そこまで踏み込めない。
・「困ってますか？」と聞くと、たいがい「困ってない」という。「ごみはどうされていますか？」「資源ごみは出しに行っていますか？」「（行っていない場合）誰か持っていってくれていますか？」とおおまかに聞くのがよいのでは

ないか。家の中でどのように分別されているかを見せてもらうのも一つの手。
・聞く人（民生委員）のスキルや性格にもよるのでは？ズバッと聞ける人とそうでない人がいる。
・施設への聞き取りも必要なのではないか。リブラン扇などでは、入所者が分別をあまりしていない状態で、施設前のごみステーションに直接捨てに行っているようだ。
・急に振られてもなかなか良い考えが浮かばない→次の機会に持ち越し。

３　ゼロ・ウェイスト行動計画の見直しワークショップ（KJ 法）

KJ 法（川喜田二郎さん考案の分類分けの手法）を使って、前々回にゼロ・ウェイストの実現に向けて必要なこととして出してもらった取組内容を、全員で共有しながら分類していった。分類された各グループに名前をつけ、それぞれのグループの関係性を整理した。（別添資料参照）



⇒次回の円卓会議で、具体的に何から取り組んでいくか、行動計画を考える。

４　その他

★エコタウンツアーについて
・KSP の森山さんから提案があった。市民は、職員ですらエコタウンのことを知らない人が多い。これを機会に ZW から参加（企画）してはどうか？
・エコタウンを見ると資源がどのように回っているかよく分かる。現在の分別方法が本当に正しいのか見直しの時期にきていることもあり、今後の参考になると思う。
・一度市民向けにモニターツアーや見学会を実施しては？
・田中商店は第１、第３土曜日であれば受入可。まずは ZW のメンバーのみでツアーを実施。
⇒３月１２日（月）午後からに決定。集合時間や場所等については、おって連絡する。

★もったいない BOX について
・シルバー人材センターが依頼を受け、まだ使えると判断した物をセンターに

持ち帰り展示販売。今年度から実施しておりすでに３００件の取引あり。
あまり市民の認知度は高くない。エコタウンモニターツアーの際に立ち寄ってみてはどうか。

●ワークショップ後雑談
・（完成品を見て）こういうものを合同会議で発表したい。
・こういう報告をしてこそ合同会議。
・ZW は（発表順が）一番だからインパクトがある。全体の雰囲気をつくりたい。
・コンサルが来ないのをみると、計画書の策定はもう済んでいるのだろうか。
→今日のワークショップで出た意見を計画に反映させるつもりである。
・計画が完成してしまってからでは遅い。

●まとめ
・葉山町長交代。連絡をとっているが ZW は今後も進めていくとのこと。
・ワークショップの結果をまとめて書類に残して欲しい。もちろん、このままの形でも保存を。地域に持っていけるし書類よりもインパクトが強い。
・他の円卓会議に対して ZW ではこんなことをやっているということを分かりやすく示せる。
・地域には「ゼロ・ウェイスト」という言葉が浸透していない。これに変わる分かりやすい言葉を考えなければならない。
・直訳すると「無駄」。しかし「ごみ」という意味もあるので、それらを包括する言葉があればいいのだが。
・「我慢」ではなくてシンプルとか美しいという価値観を植えつけることが大事。
・学校で牛乳パックを洗って干すところまでしてくれたら良いのだが。
→工業高校では、生徒たちが牛乳パックを干す台を自作している。それを広げられないか。
・牛乳パックの行方について、学校で話をする機会をもらえたら。
・自分自身正確な分別方法を意外と知らない。迷う物を持ち寄って、実際に分別を体験できる機会があったら良い。ニーズも高い。
・「分別なんでも相談」やクリーンセンターでの指導、ホームページでの周知等あったら良い。
・熊本市では、紙の分別が厳しく、厳密に言うと、表面がコーティングされたものや香りのついたものなどは更に分別しなければならない。しかし水俣では、これ以上項目が増えると混乱するから「紙」で出して良いことになっているのではないか。
・分別収集は２４分別だが、実際は、収集後クリーンセンターで約９０種類に

まで分別している。
・ホッチキスは取らないといけない？→溶融炉でスラグにするので OK。
・ストーカ式って？→格子の上でごみを移動させながら燃やして処理する炉。
市でも今のガス化溶融炉の前はそれを使っていたが、ダイオキシンの問題があって現在のものになった。

●エコタウンモニターツアー実施予定日　→３月１２日（月）14：00 頃
集合時間・場所等は追って連絡する。
●次回円卓会議開催日　→２月２０日（月）１９：００～
（※職員の東京出張あり。調整後連絡）
内　容：行動計画の作成、茶のみ場報告等